

第2学年1組 国語科学習指導案

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅲ

平成30年2月9日(金) 公開授業Ⅱ

会場 1階-③ (A 2年国語)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 里村 穰

1 単元名 開演! 劇団 Max Smile - 教材文「ニャーゴ」 -

2 本単元の価値

本単元は、新学習指導要領における第1学年及び第2学年の次の指導事項を受けて設定する。

- | |
|---|
| <p>1 (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。</p> <p>2. C 読むこと</p> <p>(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。</p> |
|---|

本単元では、物語「ニャーゴ」を教材文(※別紙、資料参照)とする。食べようとする猫の目論みを知らず一貫して無邪気に振る舞う三匹の子ねずみたちと、この子ねずみたちの無邪気さによって心情を変化させていく猫とが、軽妙な会話文を中心に描かれている。

また、言語活動として「音読劇で『ニャーゴ』を紹介すること」、「音読劇開演を伝えるポスターをつくること」を設定する。音読劇は、生活班(3~4人)の中で役割(登場人物、ナレーター)を分担して、音読で1年生に物語を紹介することとする。「音読劇開演を伝えるポスター」には、開催日時や開催場所等だけでなく、登場人物(猫・子ねずみたち)を紹介する欄を組み込む。そして、音読劇を開催する前に、このポスターを使って1年生を音読劇に招待することとする。

このような言語活動を設定した本単元では、特に、登場人物の猫の紹介を考える場面において、次のように資質・能力を育成することができることに価値がある。

一つめは、目的に応じて読もうとする態度の育成である。登場人物を紹介するためには、その登場人物がどのような人物なのかを示す根拠となる言葉が必要となる。「どの言葉から登場人物のどのような人物像が分かるか」という問いをもった子どもは、人物像が分かる言葉を求めて読もうとする。

二つめは、言葉の働きや主語と述語との関係に関する知識・技能の育成である。根拠となる言葉を探すためには、どの言葉が誰の言動を表しているのかを見定める必要がある。その際に子どもは、言葉の働きや主語と述語との関係に関する知識・技能を用いる。

三つめは、登場人物に関する言葉を基に登場人物の行動や心情を具体的に想像する力の育成である。根拠となる言葉を判断するためには、その言葉が根拠となる理由が必要となる。言葉を判断する際に、子どもは言葉を基に想像する力を発揮して言葉を選び出す。



3 目指す姿

言葉と言葉とを関係付けて読み、猫の人物像をとらえる子ども

具体的には、「言葉による見方・考え方」を働かせ、猫の言動に関する言葉を基に猫の行動や心情を具体的に想像する力等を発揮して、猫の人物像を表現している姿

4 働かせる「見方・考え方」

「言葉による見方・考え方」

具体的には、猫の言動に関する言葉の意味に着目し、猫の言動に関する言葉と猫の人物像とを関係付けて考えること

5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

6 指導の構想

単元の一次では、まず、1学年担任からの依頼という形で言語活動「音読劇で『ニャーゴ』を紹介すること」を提示し、別の物語の音読劇をモデルとして見せる。次に、教材文「ニャーゴ」と出合わせた後に登場人物と出来事とを問い、音読の役割を提示して練習に取り組みせる。

その後、言語活動「音読劇開演を伝えるポスターをつくること」とポスターの形式とを提示し、猫の人物像と根拠とした言葉とを問う。子どもは、例えば、「ずる賢い猫だと思う。子ねずみたちと一緒に桃を食べているときに心の中で『おなかいっぱいになったら、こいつらが食べられなくなるからな。ひひひひ。』と笑っていて、子ねずみたちをだまして食べようとしているから」などと直接的な表現の言葉を根拠とし、登場人物の猫の人物像を一面的にとらえている。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

猫の人物像の根拠となる言葉を複数例示し、感じた疑問とその理由とを問う。

問いをもたせ、「言葉による見方・考え方」を引き出すための働き掛けである。

まず、猫の人物像として多く挙げられていた性格や人柄を伝え、根拠となる言葉を複数例示する。その際、直接的な表現の言葉と暗示的な表現の言葉とを示す。子どもは、自分が考えていた言葉との相違から、「どうしてその言葉なのだろうか」などと問いをもつ。

次に、感じた疑問とその理由とを問う。これにより、「言葉による見方・考え方」を引き出し、学習課題の設定へとつなげる。子どもは、「どうしてその言葉から、どのような猫なのかが分かるのか」などと、「**言葉による見方・考え方**」を働かせ始める。これらの疑問をまとめ、『「ニャーゴ」に出てくる猫をどのような猫と紹介するか」という学習課題を設定する。

働き掛け2

例示した言葉を分類して分かることを問うた後、それぞれの言葉から猫の何が分かるか、どのような猫かを考えられるか、考えるためにどうするかを問う。

「言葉による見方・考え方」を明確化し、見通しをもたせるための働き掛けである。

まず、例示した言葉を言動で分類して分かることを問う。これにより、人物像の根拠となる言葉が猫の言動に関する言葉であることをつかませる。子どもは、「猫のした言葉だ」「猫の話した言葉だ」などと、猫の言動に関する言葉で分類されていることに気付く。

次に、それぞれの言葉から猫の何が分かるか、どのような猫かを考えられるか、考えるためにどうするかを問う。これにより、猫の言動に関する言葉から猫の心情をつかむこと、そのために猫の言動に関する言葉を意識して読むことを共有させる。子どもは、「猫の言葉を見つけて、その言葉から猫の気持ちを考えれば猫がどのような猫なのかが分かる」などと「**言葉による見方・考え方**」を明確にもつ。そして、「そのためにもう一度教科書を読もう」(国語科③)などと、課題解決の見通しをもつ。また、「ツールを使って考えたい」などの方法も挙げる。

働き掛け3

個人で読む場を設定した後、どの言葉から猫のどのような心情が分かったのかを伝え合う場を設定する。

言葉を吟味し、課題解決に必要な情報を収集・整理させるための働き掛けである。

まず、ツールを配付して個人で読む場を設定する。これにより、物語の文脈に即して言葉を吟味させるのである。子どもは、教材文から猫の言動に関する言葉を見定め(国語科①)、ツールに猫の言動に関する言葉を書き出していく。また、猫の言動に関する言葉から猫の心情を想像し(国語科②)、書き出した言葉につなげて書き足していく(ツール活用能力)。

次に、どの言葉から猫のどのような心情が分かったのかを伝え合う場を設定する。これにより、解釈の交流を促し、課題解決に必要な情報を判断する手掛かりとさせるのである。子どもは、「この言葉から猫のこのような気持ちが分かる」「同じような気持ちは、猫のこの言葉からも分かる」「その言葉からは、このような猫の気持ちも分かる」などと話し合っていく(協働性)。

働き掛け4

課題解決のために必要な言葉を問い、言語活動に応じた表現の場を設定する。

課題解決に必要な情報を判断させ、課題解決させるための働き掛けである。

まず、『「ニャーゴ」に出てくる猫がどのような猫かを紹介するために、必要な言葉はどれか』などと、課題解決のために必要な言葉を問う。子どもは、「この言葉からはこのような猫の気持ちが分かる。この言葉からはこのような猫の気持ちが分かる。登場人物の猫を紹介するためにはどちらの言葉も必要だから、どちらの言葉も使って紹介しよう」などと、人物像の根拠となる複数の言葉が必要だと判断する。

次に、言語活動に応じた表現の場を設定する。子どもは、課題解決に必要なだと判断した複数の言葉を根拠として、人物像を表現する。この姿が、**言葉と言葉を関係付けて読み、猫の人物像をとらえる子どもの姿**である。

働き掛け5

「分かったこと・できたこと」という二つの観点を提示して、学習の振り返りの場を設定する。

発揮した様々な資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

「分かったこと・できたこと」という二つの観点を提示して、学習の振り返りの場を設定する。子どもは、「猫の言葉から猫の気持ちを考えて、どのような猫かを考えることができた」(国語科②)など、課題解決の過程で発揮した様々な資質・能力を自覚する。

7 指導計画 全14時間

別紙、「指導計画」参照

8 本時の構想<第2日目> 7/14時間(45分授業)

(1) 本時のねらい

猫の言動に関する言葉を基に猫の行動や心情を具体的に想像する力等を発揮して、猫の言動に関する言葉と言葉とを関係付けて読み、猫の人物像を表現することができる。

(2) 展 開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p>1 猫の言動に関する言葉から猫の心情を解釈し、解釈の交流をする。 ☆ツール活用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、猫がした言葉や言った言葉を書いて、その言葉から分かる猫の気持ちを外側に書きました。 ・わたしは、猫がした言葉や言った言葉を書いて、その言葉から分かる猫の気持ちを外側に書き、その外側にどんな猫かを書きました。 ・わたしは、猫がした言葉や言った言葉を書いて、その言葉から分かる猫の気持ちを外側に書きました。そして、同じような気持ちが分かるところを線でつなげました。 <p style="text-align: center;">☆国語科①②、協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手をふり上げて立っていました」という言葉です。この言葉からは、ねずみを食べてやろうという猫の気持ちが分かります。 ・「ニャーゴ できるだけこわい顔でさげびました」という言葉も、ねずみを食べてやろうという猫の気持ちが分かると思う。 ・「だれって、だれって……たまだ」という言葉です。この言葉からは、少し猫が困った気持ちになっているのが分かります。 ・「ううん」という言葉も、猫の困った気持ちが分かると思います。 ・「ももをだいじそうにかかえたまま」という言葉です。この言葉からは、ねずみからもらった桃を大切にしようという猫の優しい気持ちが分かると思います。 ・「ニャーゴ 小さな声で答えました」も、桃をくれたねずみたちへの「ありがとう」という気持ちが分かります。 	<p>○子どもが書き込んだ思考ツールを提示した後に、どの言葉からどのような猫の心情が分かるのかを問う。</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け3-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明「前の時間、猫の言ったりしたりした言葉を見つけて、その言葉から猫の気持ちや理由を考えていましたね」 ・説明「今日は、まず、どのようにツールを使っているかを発表してもらいます」 <p>※ 前時に子どもが書き込んだ思考ツールの中から、効果的に使っている思考ツールを選び、該当の子どもにどのように使っているかを発表させる(2~3名)。</p> <p>※ 事前にタブレット端末で撮影しておいた画像をテレビに投影して提示する。</p> <p>※ 該当の子どもの説明内容を板書してまとめる。 (提示する思考ツール)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①猫の言動に関する言葉から、猫の心情を想像しているもの。 ②猫の言動に関する言葉から、猫の心情を想像し、さらに猫の性格や人柄を書き表しているもの。 ③猫の言動に関する言葉から、猫の心情を想像し、さらに類似する心情でつなげているもの。 <p>※ 発表後、再度個人で思考ツールに書き込む時間を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明「いろいろな言葉から、猫の気持ちが分かったようですね」 ・発問「どの言葉から、猫のどんな気持ちが分かりましたか」 <p>※ 拡大した教材文を黒板に貼り、子どもが挙げた言葉にサイドラインを引き、その言葉から分かる猫の心情を黒板に書く。</p> <p>※ 同じような猫の気持ちが分かる言葉がほかにないかを全体に問い返す。</p>

2 必要な言葉を判断し、猫の人物像を表現する。

- ・ぼくは、「手をふり上げて立っていました」という言葉と、「ニャーゴ できるだけこわい顔でさげびました」という言葉を使います。
- ・音読劇を聞きに来てくれる1年生に、子ねずみたちを食べようと思っている猫が出てくることを紹介したら、1年生がお話に興味をもってくれると思うからです。
- ・わたしは、「ニャーゴ できるだけこわい顔でさげびました」という言葉と、「ニャーゴ 小さな声で答えました」という言葉を使います。
- ・1年生に、登場人物の猫の気持ちが変わったことを紹介したいからです。
- ・この言葉を使えば、子ねずみたちを食べようという気持ちが変わって子ねずみたちに優しい気持ちになったことが紹介できると思うからです。

- ・「ニャーゴ」には、始めは恐いけれど、途中から優しい猫が登場します。こわい顔でニャーゴと叫んだり、小さな声でニャーゴと答えたりします。
- ・「ニャーゴ」には、ちょっとずる賢いけれど、実は優しい猫が登場します。始めは、「こいつらが食べられなくなる」と思っていたけれど、最後には桃を大事そうに抱えて、小さく「ニャーゴ」と答えます。最後の「ニャーゴ」から、猫の「ありがとう」という優しい気持ちが分かります。

3 発揮した資質・能力を自覚する。

- ・「ニャーゴ」のお話の中から、登場人物の猫の言ったり、したりしている言葉を見付けることができました。 **☆国語科①**
- ・猫の言ったり、したりしている言葉から、そのときの猫の気持ちを考えることができました。 **☆国語科②**
- ・このお話に出てくる猫がどんな猫なのかが分かる言葉を探しながら、お話を読むことができました。 **☆国語科③**
- ・ツール（ウェビングマップ）を使って、猫の言ったり、したりした言葉から広げて、猫の気持ちを書くことができました。 **☆ツール活用能力**
- ・猫の言ったり、したりした言葉からどんな猫の気持ち分かるかを、みんなで話し合うことができました。

☆協働性

○課題解決のために必要な言葉を問い、言語活動に応じた表現の場を設定する。

【働き掛け4】

- ・説明「このお話に出てくる猫について、いろいろな言葉から猫の気持ちを考えることができましたね」
- ・発問「この猫を紹介するために、『ニャーゴ』のお話の中のどの言葉を使って紹介する文を書きますか」
- ※ 必要に応じ、その言葉を選んだ理由を問い返す。
- ※ 子どもの発言内容をまとめ、黒板に板書する。

- ・説明「では、音読劇を聞きに来てくれる1年生に、登場人物の猫を紹介する文を書きます」
- ※ ポスターを配付し、記述する欄を指示する。
- ※ 紹介文の記述の仕方を例示する。
(例示)
「ニャーゴ」には、〇〇なねこが登場します。お話の中で、「〇〇」と言ったり、〇〇をしたりします」

○「分かったこと・できたこと」という二つの観点を提示して、学習の振り返りの場を設定する。

【働き掛け5】

- ・説明「『ニャーゴ』に出てくる猫をどのような猫と紹介するのかをこれまで考えてきましたね」
- ・指示「ここまでの学習を振り返って、自分が『分かったこと・できたこと』を、振り返りシートに書きましょう」
- ※ 数名の子どもを指名し、分かったことやできたことを問う。

(3) 評価

猫の言動に関する言葉を根拠として、猫の人物像を表現している。(記述、授業中の発言)